⑸　特別地域内除染実施計画の見直し等

本計画に基づく取組を着実に進めるため、除染等の措置の作業の進捗状況や作業の前提となる仮置場等の確保の状況等について定期的に点検を行う。その結果必要と認められる場合又は本計画策定後に新たに避難指示区域の設定や見直しが行われた場合、技術的知見が著しく進展した場合等には、本計画の見直しを実施し、特措法第29条に沿って本計画を変更する等適切な措置を講ずることとする。

また、基本方針に掲げる長期的目標として追加被ばく線量が年間１ミリシーベルト以下となることを目指し、除染等の措置等の結果について点検・評価し、本計画期間終了以降の対応方策について国の関係機関や飯舘村と共に検討した上で、平成29年度以降において適切な措置を講ずることとする。

農用地と森林については、「３．⑵　除染等の措置等に関する方法」で述べる検討結果を踏まえ、対応方策を検討する。

[1] 本計画において、以下のとおり用語を定義する。

①　「除染等の措置」とは、事故由来放射性物質により汚染された土壌、草木、工作物等について講ずる当該汚染に係る土壌、落葉及び落枝、水路等に堆積した汚泥等の除去、当該汚染の拡散の防止その他の措置をいう。

②　「除去土壌」とは、特措法第25条第１項に規定する除染特別地域に係る土壌等の除染等の措置に伴い生じた土壌をいう。

③　「除染等の措置等」とは、除染等の措置並びに除去土壌の収集、運搬、保管及び処分をいう。

[2] 「年間積算線量」については、「ステップ２の完了を受けた警戒区域及び避難指示区域の見直しに関する基本的考え方及び今後の検討課題について」における「年間被積算線量」と同様の定義である。

[3] 平成24年３月末時点の線量

[4] 「いいたて　までいな復興計画（第一版）」（平成25年６月第三版策定）においては、飯舘村の当面の除染目標として年間の被ばく線量５ミリシーベルト以下を目指すこと、原子力災害を乗り越える施策・事業を段階的に実施すること等が明記されている。

[5] 基本方針における目標は以下のとおりである。

①　自然被ばく線量及び医療被ばく線量を除いた被ばく線量（以下「追加被ばく線量」という。）が年間20ミリシーベルト以上である地域については、当該地域を段階的かつ迅速に縮小することを目指すものとする。ただし、線量が特に高い地域については、長期的な取組が必要となることに留意が必要である。

この目標については、土壌等の除染等の措置の効果、モデル事業の結果等を踏まえて、今後、具体的な目標を設定するものとする。

②　追加被ばく線量が年間20ミリシーベルト未満である地域については、次の目標を目指すものとする。

ア　長期的な目標として追加被ばく線量が年間１ミリシーベルト以下となること。

イ　平成25年８月末までに、一般公衆の年間追加被ばく線量を平成23年８月末と比べて、放射性物質の物理的減衰等を含めて約50％減少した状態を実現すること。

ウ　子どもが安心して生活できる環境を取り戻すことが重要であり、学校、公園など子どもの生活環境を優先的に除染することによって、平成25年８月末までに、子どもの年間追加被ばく線量が平成23年８月末と比べて、放射性物質の物理的減衰等を含めて約60％減少した状態を実現すること。

なお、上記の線量は平成23年８月末時点における追加被ばく線量である。

[6] これは、本計画の期間内に合理的な除染方法によって広範囲に可能な限り線量を下げることを行うため。

[7] 中間貯蔵施設については、地方公共団体や住民の理解を得つつ、仮置場への本格搬入開始から３年程度を目途として供用開始する。

図

※概ね年間積算線量50ミリシーベルト超（平成24年３月末時点の線量）となる地域については、除染技術の確立及び作業員の安全性の確保のための除染モデル実証事業の結果、復興計画の総姿及び線量の程度等を踏まえ、除染の実施に向けて早急に検討する。